

**後期高齢者医療の在り方について**  
**～後期高齢者の心身の特性にふさわしい医療の在り方をどのように考えるか～**

平成19年2月5日

村松 静子まいるこ

事務局のたたき台について、私見を述べさせていただきます。

1 後期高齢者の心身の特性

後期高齢者は全般的な運動能力が落ちることは避けられないことだが、その心身の特性を考えた際、70歳代と90歳代ではあまりに異なる。また、体格差が非常に大きい。80歳で現役として活躍している人も多くいる今の時代、人間個人個人の生活に目を向けた「後期高齢者とは」を捉えるべきである。

改めて、後期高齢者医療＝終末期医療だけではないことを前提にした医療の在り方を考える必要があるのではないか。

2 基本的な視点

- \*透析医療、ペースメーカー等、種々の医療機器を装着することで元気に生活している人達は多い。若い頃から受けている治療や処置を年齢に関係なく継続できる医療
- \*身体に無理のない、回復を見据えた医療
- \*後期高齢者の受診拒否のない、納得できる医療

3 後期高齢者医療における課題

- \*日常生活の保障と心のサポートがあった上での医療を考えることが最重要課題である。

4 後期高齢者にふさわしい医療の体系

- \*回復の可能性を見越した高齢者の医療評価が必要
- \*在宅での24時間看護が進められる看護師の役務権限と報酬の再検討
- \*療養者・家族・介護者の安心が得られる医療体制の構築